

東京工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	応用数理学Ⅱ		
科目基礎情報								
科目番号	0042			科目区分	専門 / 選択			
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 2			
開設学科	機械情報システム工学専攻			対象学年	専2			
開設期	前期			週時間数	4			
教科書/教材	参考図書： ニール コブリッツ (著), 桜井 幸一 (翻訳)『数論アルゴリズムと楕円暗号理論入門』 シュブリンガー・フ ェアラーク東京							
担当教員	南出 大樹							
到達目標								
暗号理論の基礎となっている数論アルゴリズムを扱う。離散数学の復習をおこなった後に、初等整数論の基礎について概説する。公開鍵暗号の 具体例を示し、いくつかの素因数分解アルゴリズムを解説する。これらのアルゴリズムの基礎となっている数学について深く理解するとともに 、アルゴリズムを実装する上で必要な技術を身につけることを目標とする。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安 (可)		未到達レベルの目安	
数論アルゴリズム	数論的命題の証明を理解し 、アルゴリズムへ応用する ことができる。		数論的命題を理解し、アル ゴリズムへ応用することが できる。		数論的命題を理解し、アル ゴリズムで表現することが できる。		数論的命題を、アルゴリズ ムで表現することができな い。	
計算量	アルゴリズムの計算量を正 確に把握・比較することが できる。		アルゴリズムの計算量を正 確に比較することができる 。		アルゴリズムの計算量を大 きく分類することができる 。		アルゴリズムの計算量を分 類することができない。	
素因数分解	各種素因数分解法の利点や 欠点を理解し、使い分け ることができる。		各種素因数分解法を用いて 、素因数分解できる。		素因数分解アルゴリズムを 組むことができる。		素因数分解アルゴリズムを 組むことができない。	
暗号理論	暗号理論の仕組みを理解し 、各種暗号における暗号化 と復号化を行うことがで きる。		各種暗号理論における暗号 化と復号化を行うことが できる。		与えられた暗号において 、復号することができる。		各種暗号において、暗号化 ・復号化ができない。	
学科の到達目標項目との関係								
JABEE (c) 学習・教育目標 C1								
教育方法等								
概要	符号理論や暗号理論との関係から、脚光を浴びている数論アルゴリズムを初歩から系統的かつ総合的に解説する。 〔内容〕数論アルゴリズム／素数判定／素因数分解／離散対数問題／公開鍵暗号／楕円曲線							
授業の進め方・方法	主に講義形式で行う。必要に応じてプリントを配布する。 配布プリントを用いて予習し、授業中に扱った内容については復習しておくこと。 復習時、余裕のある者はアルゴリズムを実装して、その動作を確認すること。							
注意点	この授業では、事前に提示される課題への取り組みが重要となってくる。 課題への取り組みを中心とした自学自習の習慣を身につけること。 数論アルゴリズムの理解について試験を実施する。試験の結果をもって評価する。 質問等があるときは事前にメールでアポイントメントを取ってから研究室を訪問すること。							
授業計画								
前期	1stQ	週	授業内容			週ごとの到達目標		
		1週	基数, 合同式, 計算量			整数に関する基礎事項、除法の定理を理解し、計算量 の概念を理解する。		
		2週	ユークリッド互除法, 中国剰余定理			合同一次方程式を解くことができる		
		3週	フェルマーの小定理 (オイラーの定理)			フェルマーの小定理を用いて、素数判定ができる。		
		4週	有限体, 平方剰余相互法則			ルジャンドル記号とヤコビ記号を用いて、剰余判定が できる。		
		5週	簡単な素数判定と擬素数			素数判定と擬素数の関係を理解する。		
		6週	素因数分解 1			モンテカルロ法, フェルマー法を用いて、素因数分解 を行うことができる		
		7週	素因数分解 2			連分数法, 2 次ふるい法を用いて、素因数分解を行う ことができる		
	2ndQ	8週	中間試験					
		9週	暗号理論入門			簡単な暗号系を理解し、行列による暗号化と復号化を 行うことができる。		
		10週	公開鍵暗号, R S A 暗号			公開鍵暗号の仕組みを理解し、R S A 暗号による暗号 化と復号化を行うことができる。		
		11週	離散対数問題			離散対数問題の計算量的難しさを理解し、簡単な計算 を行うことができる。		
		12週	離散対数暗号			離散対数暗号による暗号化と復号化を行うことがで きる。		
		13週	楕円曲線入門			楕円曲線の初歩を理解し、簡単な計算を行うことが できる。		
		14週	楕円曲線を用いた素数判定と素因数分解			楕円曲線を用いた素数判定と素因数分解を行うことが できる		
		15週	楕円曲線暗号			楕円曲線暗号による暗号化と復号化を行うことが できる。		
		16週	期末試験					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週	

基礎的能力	数学	数学	数学	整式の加減乗除の計算や、式の展開ができる。	3	
				因数定理等を利用して、4次までの簡単な整式の因数分解ができる。	3	
				分数式の加減乗除の計算ができる。	3	
				平方根の基本的な計算ができる(分母の有理化も含む)。	3	
				因数定理等を利用して、基本的な高次方程式を解くことができる。	3	
				簡単な連立方程式を解くことができる。	3	
				累乗根の意味を理解し、指数法則を拡張し、計算に利用することができる。	3	
				対数の意味を理解し、対数を利用した計算ができる。	3	
				線形変換の定義を理解し、線形変換を表す行列を求めることができる。	3	
				合成変換や逆変換を表す行列を求めることができる。	3	
				簡単な場合について、関数の極限を求めることができる。	3	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	0	0	0	0	50	100
基礎的能力	50	0	0	0	0	50	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0